

新型コロナウイルス感染症

院長

新型コロナウイルス (2019 n-CoV) 感染症 (以下コロナ感染症) の話題が連日報道されています。マスコミの得意技ではありませんが、「必要以上の心配なく冷静に対処しましょう」とは裏腹に不安を煽るようなコメントや映像もあとをたちません。多くの読者は恐ろしい病気と思っているに違いありません。さて2019 n-CoV 感染症とはどんなものなのでしょうか。さらに今後の予想や予防法についても解説していきます。

中国武漢から始まった感染の拡大は、患者 (確定) は27カ国、患者数は28,252例になりました。患者数が多いのは、中国28,018例、シンガポール28例、日本・タイ25例、中国だけで99%以上を占めています。死亡は中国563例、香港・フィリピン1例です。(2.6現在)。もうひとつ日本でのクルーズ船での感染が問題になり、乗客・乗員合わせて約3,700人中、発熱やせきなどの症状があったり、症状がある人と濃厚接触したりした273人の検査を行った結果、61人で感染が明らかになりました (2.6現在)。

感染症で一番気になるのは重症度、完全一致ではありませんが死亡率でしょう。同じコロナウイルス属のSARSやMARSと比較されますが、それぞれの死亡率は10%、30%前後です。一方現時点でのコロナ感染症による死亡率は2.0%程度です。この2%というのはいかほど高いのでしょうか、低いのでしょうか。さらに貴重なのはチャーター便、クルーズ船の情報で、感染者のほとんどは軽症のようで、当然ながら死亡者はいません。

国を超えて流行する代表的な感染症はインフルエンザです。季節性インフルエンザの死亡率を確定するのは難しいのですが、概ね0.05~0.1%程度とされています。2月1日アメリカの疾病管理予防センター (CDC) から2019-2020年シーズンのインフルエンザ感染者数は2200万人以上、入院患者数は21万人、死者数は12,000人と報告されました。もうひとつ重要なのが感染力です。CDCの報告からインフルエンザの死亡率を概算すると0.05%になります。つまり重症度が高くなくても感染力が強い (感染率が高い) ことになれば、当然死亡者は増えてくるのです。

今回のコロナ感染症から2009年新型インフルエンザ (A(H1N1)pdm09) の世界的流行を思い浮かべる読者も多いことでしょう。ウイルスの種類は全く異なりますが、似たような経過を辿っているように思われます。新型インフルエンザは2009年5月9日メキシコから帰国した高校生から始まり、短期間のうちに日本全国に広がりました。政府は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項の「新型インフルエンザ等感染症」に基づき、不要不急の渡航延期を求める感染症危険情報 (2009.4.28) を発出、主要空港でメキシコ等から到着した旅客機の機内検疫。

2009年4月27日から渡航歴・滞在歴、接触歴、周囲状況等により発熱相談センター相談、発熱外来を受診する体制がとられました。しかしながら患者数の増加に加え比較的軽症例が多いことから、6月19日からは全ての医療機関での診察となりました。コロナ感染症も同様の措置がとられ、一般の人から相談を受けるコールセンターが開設され、新型コロナウイルス感染症「疑い例」は帰国者・接触者外来 (指定医療機関) で対応することになっています。

2月6日に宮城県感染症ネットワークに参加しました。現状や体制等の連絡事項が主でしたが、東北大学微生物押谷教授から興味ある話が聞けました。2019 n-CoV 感染症の重症度と感染力の質問に対して、「SARSやMARSと比べれば重症度はあまり高くなく、深刻に考える必要なさそう。しかし感染力は高い可能性がある。軽症感染者や不顕性感染者が多いことから既に潜在的拡大が進んでいる可能性もあり、流行を食い止めるのは難しいだろう。現在水際対策が行われているが、むしろ今後の流行拡大を想定しての対策が必要。」と述べられていました。押谷先生は日本の感染症の権威の一人ですが、質問した自分と同じように考えていることに安心しました。

ここで、新型インフルエンザ感染に関する研究を紹介いたします。研究名は「小児科診療所医療従事者コホートにおける新型インフルエンザの感染に関する調査」(QRコード) です。難しい話はさておき、感染者の約50%が軽症感染者、症状が認めない感染者つまり不顕性感染が20%近くあったというものです。コロナ感染症の報告でも軽症感染者・不顕性感染者の報告がされています。このようなケースを特定することが難しいため対策が遅れ流行拡大の要素になっているのかもしれませんが。医療従事者のデータですが、通常感染予防策では感染が防げなかったということにも注意しなければなりません。さらに新型インフルエンザと違って治療薬と診断キットがないことが、今後の流行に拡大にどう影響するのにも注意が必要です。

さてこれまで述べたところから、どんな対応をしたらいいのでしょうか。それは1月23日KHB「チャージ!」でコメントしたことが全てです。QRコードで見れますので参考にしてください。新型インフルエンザ流行時の対策についてはCLINIC NEWS「パンデミック! ?」(2009年5月号) も参考にしてください。

基本的には必要以上の心配はせず、最新の正しい情報を収集し冷静に対応すること。そしてインフルエンザと同様の感染予防策をしっかり行うことに尽きるでしょう。



感染予防策

新型コロナウイルスに特有な予防法はありません。たとえ流行が始まったとしても、そばで咳をしている人がカゼ、インフルエンザ、コロナ感染症なのか区別が付きません。となれば個人でできる通常の予防対策を励行することが大切です。特に咳エチケットが推奨されているので解説を示します。より理解を深めるためには、感染経路を知ることが不可欠です。現時点ではコロナ感染症は飛沫感染と接触感染が経路とされています。



・飛沫感染：せき・くしゃみなどにより、細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中に飛び出し直接感染させることで、範囲は1～2mと考えられています。

・接触感染：皮膚や粘膜の直接的な接触、または医療従事者の手や医療器具、その他ドアノブ、手すりやタオルなどの周囲にある物体の表面を介しての間接的に付着したウイルスによって感染することです。

<方法>

・最も重要なものは手洗いです。感染者が触れたものによって手が汚染され、手から口や気道に入り感染を起こします。帰宅後や不特定多数の人が触れるようなものに触れた後は手を洗う習慣が大切です。手洗いは石鹸を用いることが望ましいのですが、アルコール手指消毒薬、流水でも数十秒以上時間をかければ有効です。

・コロナウイルスは糞便にも排泄されることが知られています。ですから感染性胃腸炎の予防策の1つ「スマホをトイレに持ち込まないで!」も重要です。

・流行地への渡航、人混みや繁華街、さらにコンサートなど人が集まるところへの外出を控えること。

・十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとり、規則的な生活をし、感染しにくい状態を保つこと。

・マスクに関しては様々な意見がありますが、感染予防効果に関しては無効という報告もあります。新型インフルエンザの研究でもあまり効果はないという判断です。しかし咳エチケットとして着用することは有用で、日常的な衛生習慣として行うのはいいでしょう。通常の場所でのマスクはあまり意味がないことも理解しましょう。

<どうしても心配な時>

Mail News・Facebook 登録者の方は相談してください。仙台市では**新型コロナウイルス感染症に関する一般電話相談窓口(コールセンター)**を開設しています。電話番号、受付時間などは下欄外に示します。

仙台市 HP：新型ウイルス感染症（市民の皆様へ）⇒



「咳エチケット」

厚生労働省は、他の人への感染を防ぐため、「咳エチケット」をキーワードとした普及啓発活動を行い、マスクの着用や人混みにおいて咳をする際の注意点について呼びかけることとします。

・咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。

・汚染されたティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。

・咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

・ヒブワクチン接種に関するお願い

ヒブワクチンについて製造上の不具合が見つかり現在供給が停止されています。特に人体に対する悪影響は認められていません。今後不足する事態も予想されるので、接種スケジュールを変更する場合があります。特に追加接種の時期を変更することがあるのでご理解ください。

2月のお知らせ

・休診のお知らせ

休診 27日(木) クリニックの定期健康診断
午後休診 29日(土) 終末期医療考える講演会

・栄養育児相談

12・26日(水) 13:30～
栄養士担当

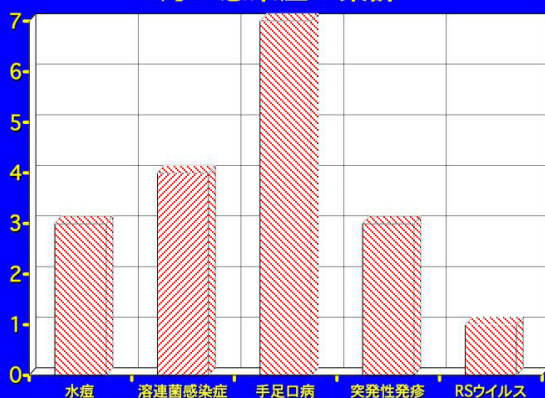
緊急風しん抗体検査事業・第5期風しん定期予防接種(2019年3月15日開始)

対象者は、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性(概ね39～57才)

風しん抗体価陰性を証明できる方。他の方は抗体検査により風しん抗体が不十分な方が定期予防接種の対象となります。抗体検査・予防接種費用は無料で、成人であっても当院で実施可能です。(平成34年3月末日まで)

パートナーだけでなく、周りにいる男性を誘って、社会を守るために検査と予防接種を受けてもらいましょう!!

1月の感染症の集計



一旦減少していた手足口病が再び増加しました。ワクチンの影響で幼児期の水痘は減少していますが、小学生を中心に水痘が見られています。他に流行している感染症はありません。グラフには示していませんがインフルエンザは61例ですが、全国、仙台市とも減少傾向です。毎週クリニックF.B.で情報を発信しています。新型コロナウイルス感染症に備えて、感染予防対策を心がけましょう。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は800人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomoclinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

世の中新型コロナウイルス感染症ばかりです。ここで本音を書きますが、流行の予想は不可能です。しかしながらクルーズ船の状況は貴重で、感染力はある程度強いものの、重症度は高くないことを示しています。これは特殊な環境で通常の社会とは比較できませんが、今後日本でも流行が拡大することが予想されます。重症度は高くないと思われそうですが、侮らず「正しく恐れましょう」。



新型コロナウイルス感染症に関する一般電話相談窓口(コールセンター)

☎ 022-211-3883 受付時間 9:00～21:00 毎日